

# Kazuo Kawasaki

#002 川崎和男 (1949 ~)

text by Keiji Kasaki

## アバンギャルド＝「特殊解」が世界を変える!

川崎和男さんは、ニューヨーク近代美術館 (MoMA) など海外の主要美術館に多数の作品が永久収蔵・展示されているプロダクトデザイナーだが、彼が越えたのは国境だけではない。MoMAが選んだのが車椅子ということで分かるように、医療分野の壁も越えてしまった。

この車椅子は鉄より強く軽量のチタンを採用。車輪もアルミのハニカム構造で世界一の軽さを誇る。こうしたハイテクもさることながら、ポップで明るい軽快なデザインが革新的なのだ。トポロジー (位相幾何学) を応用した人工心臓もデザイン。その過程で美大出身にもかかわらず医学の博士号を取得するなど、作品も彼の活動もアバンギャルドというほかない。「課題に対する答えは3つに大別できる。

Topics & Replyの「応答」、Question & Answerの「回答」、そしてProblem & Solutionの「解答」。日本は条件反射的な「応答」商品しかなかった。だから魅力に乏しかったのです」と川崎さん。だが、問題発見・解決による「解答」にしても必要十分ではないという。「その答えも一般解と特殊解の2つに分類できますが、後者の特殊解がアバンギャルドの本質。必然的に超高価になりますが、この特殊解が世界を変えるきっかけになると思うのです」

タグ・ホイヤーも一般解だけでなく、特殊解をつくってきた。それが「コンセプト・ウォッチ」であり、2009年発表の「モナコ Twenty Four クロノグラフ」だ。ムーブメントが4本のバーに支えられてケース内に浮かんでいるよ

うに見えるが、このバーがクルマのショックアブソーバーの機能を持ち、破格の耐衝撃性を実現。バーの内部には航空機などに使用されるポリマー (高分子) 素材を封入。腕時計のアバンギャルドにもハイテクは不可欠なのだ。

ただし「人間の身体はアナログだから腕時計の表現はアナログが続く」と川崎さんが語るように、感性にこだわって熟慮してきたことが両者に共通した特長といえるかもしれない。

「タグ・ホイヤーといえば、初めて心臓病で倒れた時の主治医が着けていました。なぜ覚えているかという、ロゴカラーのグリーンとレッドが印象的だったのです。腕時計も好きなプロダクトなので、機会があれば本格的にデザインしてみたいですね」

### 無類の耐衝撃性を備えた、ハイビート・クロノグラフ

2009年のバーゼルワールドで発表された「コンセプト・ウォッチ」を製品化した最新モデル。ケース四隅の「アドバンストダイナミック アブソーバー システム」でムーブメントを支えており、高度20mからの落下や、持続的な振動にも耐えるという。1/10秒を計測できる毎時3万6000振動のハイビート・ムーブメントを搭載。



### MONACO Twenty Four CHRONOGRAPH

モナコ Twenty Four クロノグラフ

自動巻き、ステンレス・スチール、ケースサイズ40.5mm、3時位置に分積算計、9時位置はスモールセコンド。パワーリザーブ50時間、ブラック・アリゲーターストラップ、100m防水。¥1,458,000



「スニーカーを履いたように街に出たくなる」車椅子をコンセプトとして開発された「CARNA」。「わがままを思いやりに変える」川崎のデザインポリシーを象徴したプロダクト。「CARNA」とは、生活の女性守護神の意。

©SIG workshop INC.

### 川崎和男

Kazuo Kawasaki

デザインディレクター・博士 (医学)

大阪大学・名誉教授 名古屋市立大学・名誉教授。1949年福井市生まれ。デザインディレクターとして、伝統工芸品、メガネ、ロボット、原子力、人工臓器、宇宙空間までデザイン対象として、トポロジーを空間論に持ち込んだ「ことばとカタチの相対論」をデザイン実務としている。



THE ART OF  
MANUFACTURING  
TAG HEUER